

● 教室(診療科)の特色 ●

胃腸科、肝胆膵科、化学療法科の三部門によりバランスの取れた形で構成されている診療科です。常勤医スタッフは38名(レジデント8名含む)で、多くは学会専門医の資格を有しており、各部門毎に専門的な最新の診療が行われています。病床としては84床を有し、一日平均の外来患者数138名、入院患者数75名、年間延べ入院患者総数は18,127名の実績があります(2020年度)。特に消化管癌領域において、外科手術適応とはならない早期癌と進行癌・末期癌に対して、各々病態に対応した幅広い専門的な内科的治療(内視鏡治療～化学療法・緩和治療)が行われていることが特色です。



樋口 和秀(ひぐち かずひで)教授(科長)

■専門分野

上部消化管疾患、小腸疾患

■経歴

昭和57年3月 大阪市立大学医学部卒業 同4月同第三内科入局
 平成 元年4月 大阪市立大学助手 平成10年7月 大阪市立大学講師
 平成14年7月 大阪市立大学助教授
 平成16年8月 カルフォルニア大学アーバイン校客員助教授
 平成19年4月 大阪医科大学第二内科教授(現 大阪医科薬科大学)

■主な所属学会

日本内科学会(指導医、評議員、理事)、日本消化器病学会(指導医、専門医、評議員)、日本消化器内視鏡学会(指導医、専門医、評議員、理事)、日本消化管学会(理事長)、日本潰瘍学会(理事長)、日本カプセル内視鏡学会(理事)等

■研究課題

消化管疾患の病態生理解明と治療法の確立(特にカプセル内視鏡による小腸疾患の病態解明、NSAID実験小腸潰瘍に対する治療法の開発)、 上部消化管内視鏡的治療(特に逆流性食道炎に対する内視鏡的治療)

● 診療科の概要・特徴 ●

①胃腸科

スクリーニングや二次検診目的の内視鏡検査、EUSをはじめとする各種の精密内視鏡検査、吐血血に対する緊急内視鏡検査と止血術、低侵襲性の内視鏡治療など最新の内視鏡機器と技術を導入して、安全かつ積極的な診療を行っています。特に早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の症例数は全国有数です。消化性潰瘍や炎症性腸疾患に対する新しい治療法の導入にも積極的に取り組んでいます。最近、逆流性食道炎に対する内視鏡的噴門形成術(ESD-G)を先進的に施行しています。また、これまで診断が困難であり「暗黒大陸」とされていた小腸の病変に対して、カプセル内視鏡とダブルバルーン小腸内視鏡検査を共に施行できる体制を整えて、最先端の診療を行っています。

②肝胆膵科

ウイルス性肝炎に対して抗ウイルス療法(主にインターフェロン・フリー治療)を行い、肝硬変・肝癌への進展を防ぐ治療を行っています。肝癌に対してはラジオ波焼灼療法(RFA)、経皮的エタノール注入療法(PEIT)、肝動脈塞栓療法(TAE)などの集学的治療を行っています。特に、そのラジオ波焼灼療法の症例数は日本有数です。また、肝癌や劇症肝炎などに対して、消化器外科と密接に連携して、外科的肝切除も積極的に行っています。

一方、胆石・胆管炎・膵炎・胆道癌・膵癌に対しては、最新の画像診断をもとに、内視鏡的逆行性胆道膵管造影(ERCP)、内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)、胆汁ドレナージ(ENBD、PTCD)、胆管ステント留置などの内視鏡的診断・治療を中心に総合的治療を行っています。また、膵腫瘍性病変に対しては、新しい手技であるEUS-FNAを施行して、病理組織学的確定診断や閉塞性黄疸に対する治療を行っています。

③化学療法科

米国テキサス州MDアンダーソンがんセンターや国立がんセンター中央病院に留学経験を持つ腫瘍内科専門医を中心に診療が行われ、日本臨床腫瘍学会認定研修施設になっています。予後不良とされてきた進行性の食道・胃・大腸癌に対して、延命治療を目的とした新しい抗癌剤による化学療法が行われ予後改善が得られています。現在開発中の治験薬の使用を含めて、日本および世界の最先端治療を提供できる体制が整えられています。また、患者のQOL向上を目的とした緩和ケアチーム(PCT)の活動も活発に行われています。

- 連絡先：大阪医科薬科大学内科学Ⅱ教室 TEL:072-683-1221
 内線 2372(教授室)、2352(医局)、2472(研究室) / e-mail:ninaika@ompu.ac.jp
- ホームページ：<http://www.osaka-med-ninaika.jp/index.html>

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	研究課題等
中村志郎(専門教授)	消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	炎症性腸疾患の診断と治療
福西新弥(特任教授)	消化器病専門医、消化器内視鏡専門医、肝臓専門医	肝疾患の診断と治療
後藤昌弘(特務教授)	がん薬物療法専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	癌化学療法
竹内利寿(准教授)	消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	上部消化管内視鏡治療
小倉 健(准教授)	消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	胆膵疾患内視鏡治療
西川浩樹(特任准教授)	消化器病専門医、肝臓専門医	肝疾患の診断と治療
朝井 章(診療准教授)	消化器病専門医、肝臓専門医、超音波専門医	肝疾患の診断と治療
宮崎孝子(特任講師)	消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	炎症性腸疾患の診断と治療
柿本一誠(講師)	消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	下部消化管疾患の診断と治療
小嶋融一(講師(准))	消化器病専門医、消化器内視鏡専門医	上部消化管内視鏡治療

初期臨床研修プログラムの特徴

1年目は24週間の内科研修の一貫として、消化器内科は選択性となっています。
 2年目は選択研修として、選択期間に応じた研修システムとなっています。

研修内容と到達目標

<1年目>

消化器内科として消化管、胆膵、肝臓、化学療法各グループの何れか2グループを選択し、各グループに2～3名ずつ8週間(1グループ×2)配属される。病棟患者は、指導医、主治医の指導の下で担当医として入院患者を担当する。なお、指導医は各疾患グループリーダー、主治医は助教、大学院生、レジデントが担う。4週目の末に医局長による面談があり、希望があれば次の4週目は当初の予定から変更が可能である。

研修内容としては、必修研修であるが故に、病棟患者の基本的な処置、患者管理、処方、診療録記載、外来業務補助などである。検査は原則として見学までにとどめる。診療上の重要事項は必ず、指導医、主治医の指示を仰ぐことを原則とする。

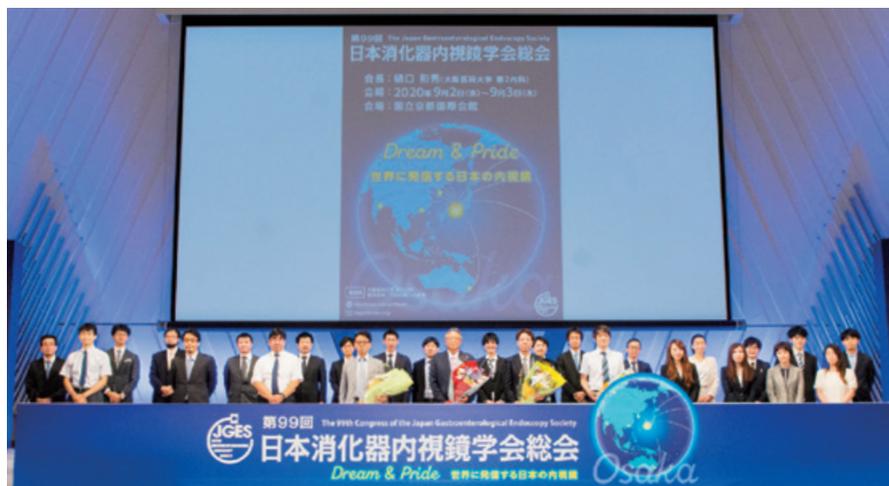
到達目標としては、専門的なレベルではなく、消化器内科領域のプライマリ・ケアとしての基本的事項の習得を目標とする。

<2年目>

選択する期間に応じた研修システムを構築している。

単独で外来診療を担当することはできないが、外来・病棟処置の中心的役割を担い、病棟患者は消化器の各分野のほぼ全領域を担当することができる。また、上部消化管内視鏡検査と腹部超音波検査は通年で施行医として担当し、これらの検査は独力で責任をもった診断ができるようになることを到達目標とする。

その他選択期間によって研修内容は異なるが、概ね病棟患者では消化器の各分野の代表的な重要疾患を担当できる内容、あるいは1年目消化器内科の必修研修で研修できなかった領域について補完もらう研修内容である。上部消化管内視鏡検査と腹部超音波検査は、基本的な検査手技と診断能力に習熟することを到達目標とする。選択期間が短期の場合は、入門から指導し、検査手技と診断技術の初歩を習得することを到達目標とする。



2020年9月 日本消化器内視鏡学会総会 医局員集合写真(会長:樋口和秀)

研修病院群

初期研修としては原則として大阪医科薬科大学病院消化器内科で研修を行い、関連病院での研修は行わない。ただし、研修2年目の地域医療の研修施設としては、当科関連の第一東和会病院、北摂総合病院が含まれる。

評価方法

当院共通の研修評価表により、研修医の評価を行う。一方、当科のカリキュラムに対する研修医のアンケート調査も行い、その回答結果は今後の研修内容の改善に活用していく方針である。

週間スケジュール

	午 前	午 後
月 曜 日	外来病棟業務、上部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査	病棟業務、大腸内視鏡検査、腹部超音波検査、化学療法病棟回診・カンファレンス、EUS-FNA/ERCP・胆道処置
火 曜 日	外来病棟業務、上部消化管内視鏡検査、腹部血管造影検査、腹部超音波検査	病棟業務、大腸内視鏡検査、上部消化管内視鏡治療(ESD)、肝疾患経皮的検査(肝生検・RFA)、肝疾患カンファレンス、胆膵疾患カンファレンス
水 曜 日	外来病棟業務、注腸造影検査、腹部超音波検査	病棟業務、大腸内視鏡検査、EUS-FNA/ERCP・胆道処置
木 曜 日	入院退院報告、朝の医局会、上部消化管内視鏡検査、腹部血管造影検査、腹部超音波検査	消化管疾患カンファレンス、上部消化管内視鏡治療(ESD)、EUS-FNA消化管造影読影会、胆膵疾患カンファレンス
金 曜 日	外来病棟業務、上部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査	病棟業務、大腸内視鏡検査、EUS-FNA
土 曜 日	外来病棟業務	

カプセル内視鏡は月～金曜日の毎日施行可能

後期研修(レジデント)プログラムの特徴

初期研修を終えて生涯の専門領域を消化器内科とするに当たって、消化器領域のいかなる分野の診療にも対応可能な臨床能力の育成を目標とします。卒後5年目での内科専門医受験のため、卒後3～5年は当院を含めた日本内科学会認定制度教育関連病院(含、基幹病院)での勤務となる。また、女性医師の将来設計に応じた勤務も対応可能です。

研修プログラム(3年目を当院から開始する場合)

<3年目>

プログラム指導責任者:科長 樋口 和秀

基本的なプログラムは、消化管、胆膵、肝臓、化学療法の各グループをローテートする。しかし、希望に応じた変更は可能で、「がんプロフェッショナル養成プラン」といったがん専門医を目指す大学院の教育プログラムにも参加が可能です。

研修内容と到達目標

外来に関しては、指導医の助言を受けながらも単独で外来診療を担当する。大学病院は高度医療機関であり専門的な疾患が多い。各領域のグループリーダーの指導を受けながらも、入院患者は主治医として担当する。一方、初期研修医に対しては指導的立場を担う。

また、画像検査に関しては、上部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査に加えて、大腸内視鏡検査、消化管造影検査、腹部血管造影検査や

経カテーテル治療、超音波ガイド下穿刺術や治療、内視鏡的逆行性胆道膵管造影(ERCP)などの検査・治療の手技を経験して習得する。消化器癌化学療法についても全般的な経験を積み、緩和医療の基本についても習得する。

そして、示唆に富む症例については、学会に症例報告として自ら発表できるよう指導し、論文作成を推奨する。

以上の臨床経験や技術の習得、学会での症例報告は学会専門医の取得のために必要な条件であり、消化器系の学会専門医取得のための基盤を形成することを到達目標とする。

<4年目～5年目>

関連病院へ出向勤務として、当科関連病院での研修勤務プログラムに準じ、消化管を含めた内科全般の研修を行う。現在のところ、出向病院としては以下の日本内科学会認定制度教育関連病院(含、基幹病院)である。

プログラムに参加する医療機関

大阪医科薬科大学病院 消化器内科／市立ひらかた病院 消化器内科／北摂総合病院 消化器内科／城山病院／阪和住吉総合病院／第一東和会病院／守口敬仁会病院／葛城病院／清恵会病院
大阪回生病院／みどりヶ丘病院／赤穂市民病院

後期研修(レジデント)終了後の進路

大学院生(卒後3年目から随時)、大学での助教(准)や臨床研修専任指導医などの教員スタッフ、関連病院への就職、国内外への留学など個人の希望やライフスタイルに応じた将来設計の選択が可能である。



2021年2月 日本消化管学会学術集会 医局員集合写真(会長:樋口和秀)

先輩レジデントのコメント



別所 希美
平成30年 川崎医科大学卒

万全の指導体制で
安心して学べる環境です。

令和2年4月から大阪医科薬科大学第二内科に入局させて頂きました、

別所希美と申します。

私は平成30年に川崎医科大学を卒業し、川崎医科大学附属病院にて初期研修を修了しました。元々手技が多い内科に行きたいと思っており、研修医の時に内視鏡検査に興味を持ち、消化器内科医を目指すようになりました。この第二内科に大学の先輩がいたこともあり、見学に来させてもらいました。すごくアットホームで和気藹々としていた印象で、他大学の先生方もたくさんおられて、雰囲気の良いさに惹かれ、入局させて頂きたいと思いました。入局後は、初診外来や病棟業務、時間外対応などで慌ただしくも、充実した日々

を送っています。また、common diseaseから、なかなか大学病院でしか見ることのできない疾患や治療まで、幅広く経験させて頂いています。勉強不足でわからないこと、できないことも沢山ありますが、その都度上級医の先生方は一緒に考え指導してくださり、多くないの事を学ばせて頂いております。今後も素晴らしい先輩方の背中を見て、学んでいけたらと思います。



小滝 知里
平成30年 金沢医科大学卒

相談しやすく働きやすい環境で
確実にステップアップできます。

私は平成30年に金沢医科大学付属病院を卒業、その後関西医科大学付属病院で2年間初期研修医を終え、令和2年に大阪医科薬科大学病院第二内科に入局させて頂きました。私は見学に行った際に多くの先生に第二内科の魅力を教えて頂き、またアットホームで楽しく働ける職場に惹かれ入局を決めました。大学ではレジデントで消化管・胆膵・肝臓・化学療法4つのチームをローテートし、それぞれのチームで専門性の高い疾患を学ぶことが出来ます。また、上下部消化管内視鏡検査や腹部エコーの手技も指導してもらったり、外来症例も相談しやすく働きやすい環境で学ぶことが出来ています。自分の知識や実力不足を感じながらも日々楽しく過ごしています。今後はもっとスキルアップして、社会に貢献出来るような医師を目指して頑張りたいと思います。



徳永 理沙子
平成30年 福岡大学卒

アットホームな雰囲気、
充実した指導環境

令和2年度より大阪医科薬科大学第二内科に入局させて頂きました、

徳永理沙子と申します。

私は、平成30年に福岡大学を卒業し、兵庫医科大学病院で初期臨床研修を修了しました。第二内科に見学に来させて頂いた時に、樋口教授をはじめ、先生方に優しくお声かけ頂き、消化器内科の魅力について教えて頂いたり、進路のご相談に乗っていただいたことが嬉しく、また医局の雰囲気の良さに惹かれ、入局を決めました。

現在は大阪医科薬科大学で勤務させて頂いており、大学病院ではcommon diseaseから稀少な疾患まで様々な疾患を経験しております。日々自分の知識不足を痛感しながらも、周りの先生方に優しく助けていただき、充実した日々を過ごしています。

大学院における教育・研究活動

教育・研究指導方針

- ① 内科学、とくに消化器領域に関する高度の総合的知識・技術を習得させ、疾患の本質、病態の追求と把握に努める。
- ② 各人の個性を尊重し、オリジナリティーのある研究を重視する。
- ③ 臨床の場から問題点を掘り起こす視点をもたせ、臨床に還元できる内容の研究に努める。
- ④ 基礎医学的な生理・病態に関する研究にも努め、基礎医学部門、国内外の専門施設との共同研究も積極的に考える。
- ⑤ 大学院は卒後3年目から入学することが可能であり、レジデントとの兼任も可能である。
- ⑥ 女性医師の指導も人生設計に応じて対応可能である。

現在の研究テーマの概要

樋口 和秀 教授

消化管疾患の病態解明に関する基礎的・臨床的研究。消化管疾患に関する新しい治療法の開発。消化器内視鏡に関する基礎的・臨床的研究(カプセル内視鏡など)。

中村 志郎 専門教授

炎症性腸疾患に対する基礎的研究及び新規治療法の開発。大腸腫瘍に対する内視鏡診断と治療。

後藤 昌弘 特務教授(化学療法センター長)

食道癌に対する放射線化学療法。胃癌、大腸癌の化学療法。癌化学療法の臨床試験(第Ⅰ相～Ⅲ相試験)。緩和医療における臨床的研究。文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」にも参画している。

福西 新弥 特任教授

肝疾患の病態と診断・治療に関する基礎的・臨床的研究。糖尿病と非アルコール性脂肪性肝疾患における基礎的研究とその臨床応用。自己免疫性肝疾患への漢方薬治療。

竹内 利寿 准教授(消化器内視鏡センター長)

上部消化管疾患の内視鏡診断および治療。逆流性食道炎・ヘリコバクターピロリ除菌療法・機能的胃腸症に対する臨床的研究。

小倉 健 准教授

胆膵疾患の病態解明と診断・治療に関する臨床的研究。急性胆道炎、重症急性膵炎の診断・治療。胆管癌、膵癌、膵管内乳頭粘液性腫瘍に対する超音波内視鏡を用いた診断・治療。内視鏡的採取材料を用いた分子生物学的研究。

取得できる学会認定医・専門医

日本内科学会、日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会、日本消化管学会
日本肝臓学会、日本超音波医学会
日本大腸肛門病学会、日本臨床腫瘍学会、日本カプセル内視鏡学会

関連病院

医局出身者の常勤医派遣病院(20病院)

市立ひらかた病院／北摂総合病院／城山病院／阪和住吉総合病院／第一東和会病院／第二東和会病院／守口敬任会病院／葛城病院／巖生会脳神経外科病院／青山病院／大正病院／巽病院／洛西シミズ病院／国立がんセンター中央病院／清恵会病院／大阪回生病院／大阪医科薬科大学三島南病院／みどりヶ丘病院／愛知県がんセンター中央病院／蒼生病院



ボーリング大会



ゴルフコンペ

国内留学先

国立がんセンター中央病院(腫瘍内科)／国立がんセンター東病院(臨床腫瘍病理部)／国立国際医療センター研究所(消化器疾患研究部)／愛知県がんセンター中央病院(消化器内科)

海外留学先

ハーバード大学／カルフォルニア大学／シカゴ大学／MDアンダーソンがんセンター／カロリンスカ医科大学／ニューヨーク大学

研究会

医局主催の研究会・勉強会は「OMC Gastroenterology & Hepatology Research Group 講演会」と称し、約2カ月に1回開催されて学術活動も活発である。講演会後の懇親会でも情報意見交換が行われて相互の交流親睦が図られる。

同門会

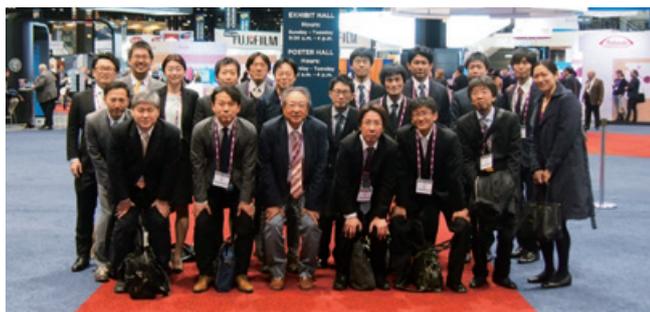
医局同門会は「春洋会」と称し、総会員数は約500名である。年1回春洋会総会が開催され、参加者数は約100名の参加を得て開催される。



春洋会総会

学会

毎年、米国消化器学会に25～30演題、発表しており発表数は8年連続日本一である。



アメリカ消化器病学会

新たな専門医制度への取り組み

消化器内科では、平成30年度からスタートした新専門医制度による後期研修をふまえ、日本内科学会専攻医登録システム(J-OSLER)への症例登録を目的とした、指導医による教育システムを構築している。

入退院患者症例数統計 (2019年1月～2019年12月;主病名として多い順)

【消化管・腹膜の疾患】

食道
食道癌:165
食道静脈瘤:20
逆流性食道炎:12

胃
胃癌:214
胃潰瘍:6
胃ポリープ:6
胃腺腫:17

十二指腸
十二指腸癌:5
十二指腸潰瘍:3

小腸
小腸出血:10
クローン病:22
小腸炎:4
小腸腫瘍:2

結腸・大腸
大腸癌:222
大腸ポリープ:99
潰瘍性大腸炎:27
感染性腸炎:3
大腸憩室出血:14
直腸カルチノイド:6

【肝・胆・膵の疾患】

肝
肝細胞癌:134
肝硬変:11
慢性肝炎:2
肝性脳症:8
急性肝炎:1
自己免疫性肝炎:9
PBC:0

胆道
閉塞性黄疸:114
総胆管結石:63
胆管癌:43
胆嚢癌:9

膵
膵癌:69
膵腫瘍:42
IPMN:12
自己免疫性膵炎:9
急性膵炎:14
膵胆管合流異常:0